

チャレンジ1.5K

与論町立茶花小学校 PTA会長 裾分 功

鹿児島県の最南端、与論町にある茶花小学校では、7月初旬に遠泳大会を開催しています。

6年生になる我が子は昨年、目を怪我してしまい、1年間プールや海に入れず、楽しみにしていた遠泳大会に出場できませんでした。

昨年の悔しさを晴らすべく「我が家のチャレンジ」は「親子で目指せ1.5K」です。小学校最後の遠泳大会、④コース1.5K（メートル）をを目指す息子。30代最後の夏の1.5K（グラム）痩せる父の思惑が一致してのチャレンジでした。

運動が大好きな息子ですが、やはりゲームやアニメも大好き。梅雨時でなかなか海に泳ぎに行くこともできない中、ゲームやテレビに費やしていた時間を、家

の中での体力づくりに充てて頑張りました。

一方、サッカーなどスポーツ「観戦」が大好きな父、やはり観戦しながらのビールやつまみが好きです。息子が我慢しているのだから父も少しばかり我慢。

いよいよ遠泳大会本番。無事に息子は1.5Kメートルを完泳してくれました。雨が多く練習量も少なかつた中で、しっかりと目標をもち親子

でチャレンジできて本当によかつたなと思えました。

今回のチャレンジを行うにあたり、PTA活動も形が変わっていく中、自分がこうやって子供たちと共に思い出を作っていく、改めてPTA活動の大事さを考えさせられました。

私のチャレンジに関して は、今年中の宿題となった ようです。



遠泳に臨む子供たちの緊張をほぐし、意欲を高めるため、副会長と学校長に担がれ海にダイブする息子

私の忘れられない思い出の一曲

いつかの少年（長淵剛さん）

鹿屋市立花岡小学校 PTA副会長 藤園智信

縁あってお寺の一人息子として命を授かりました。後を継ぐ以外の選択肢は一切与えられず（笑）、中学卒業後は、佐賀県の宗門関係の高校に進学しました。親元を離れ、

であつたということ。息子を案じ、ひとり立ちさせたことへの葛藤と後悔の間に打ち震えていたのは父、母でした。

誰一人知る人のいない不安や淋しさの中、大きく私の背中を押してくれたのは、同郷の誇り、長淵剛さんの歌う「いつかの少年」でした。ふるさとを離れて初めて知る生まれ故郷の有り難さ。若干15歳の私に、ふるさと鹿児島を歌う長淵さんの声はとても力強く、「大丈夫、大きく成長して帰ってこい」と語りかけてくれていたように、涙が止まりませんでした。

「かわいい子には旅をさせよ」おそろく両親の心にも子離れは大きなけじめであり、親としての自立であつたのでしょうか。今度は私がその立場になつてもつ度聞いてみたい。そう、いつかの少年みにたいに。

けれども、我が子を授かつて今思うのは、あの時、泣いていたのは、私以上に、鹿児島に住む両親



PTAソフトバレー大会6年生チーム